

スキー場圧雪×RTK GPS

感覚的だった積雪深を可視化!!

新米オペレータ田村颯一の挑戦

感覚による管理

熟練オペレータは、経験則に基づいて、積雪量を「感覚的」に把握し圧雪を行っている。しかし、初心者オペレータは、その感覚が十分ではなく、どこに、どのくらいの雪があるのかわからないため、特に雪の降り始めや融雪期といった積雪量に変化する際の作業は難しい。

近年、気候変動の影響による雪不足や急速な融雪により、スキー場維持は難しくなっている状況である。オペレータも高齢化しており、**圧雪技術を効率的に継承していく必要がある。**

「見えない」を「見える」にすることで、**積雪量を可視化できるのではないかと考えた。**

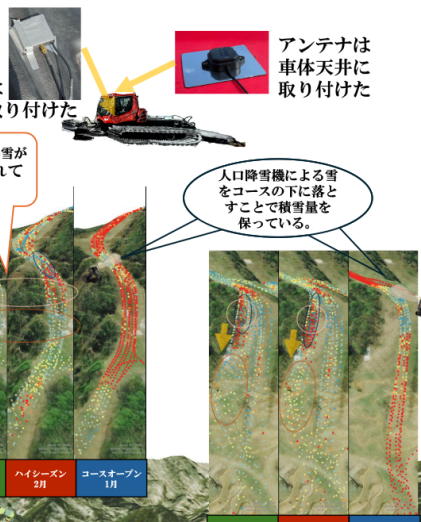
高精度の**RTK GPS**を使用することで、**積雪量を可視化できるのではないかと考えた。**

これにより、熟練オペレータから具体的な指導を受けやすくなり、**初心者オペレータも、よりよい圧雪を考えることができるようになる(はず)。**今回は、**DrogerGPS (DG-Pro1 RWS)**を圧雪車に設置して積雪量を可視化した。

みんなが知らない

圧雪の仕事

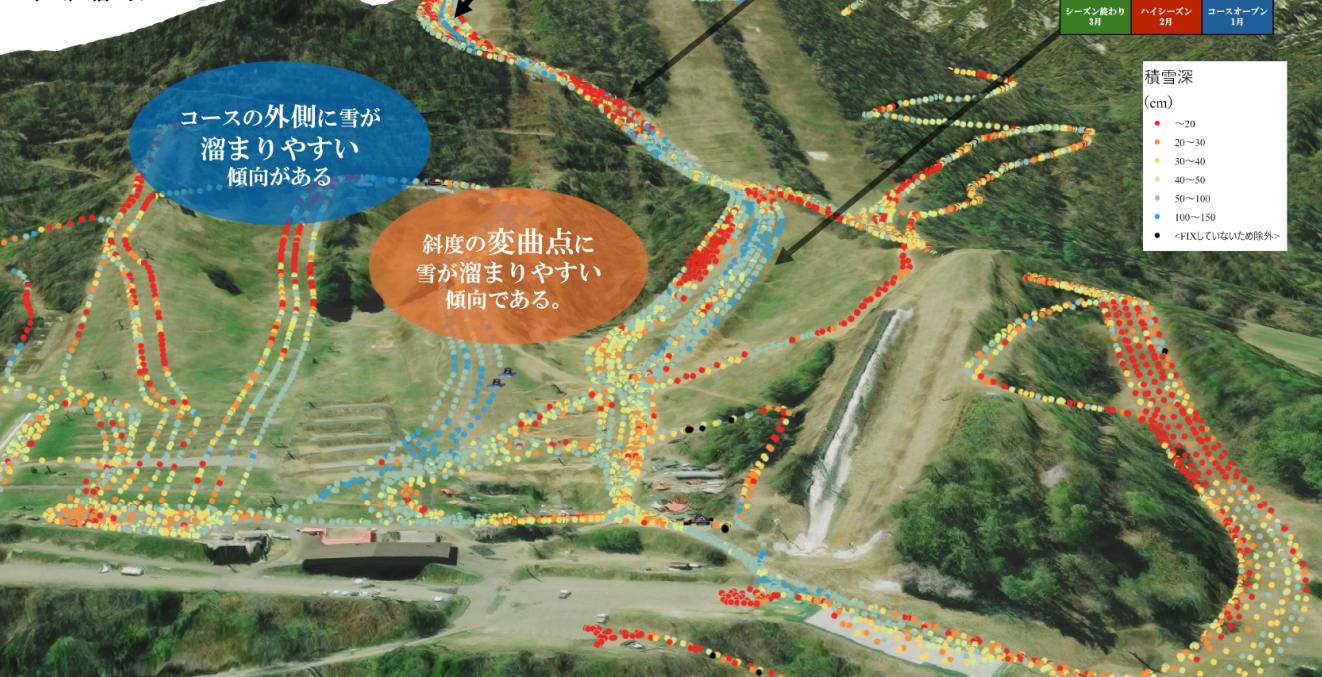
圧雪作業は深夜から翌朝まで行います。日中にスキーヤーが滑って荒れたゲレンデを、圧雪車のブレードとミルで削ったりかき混ぜて均し、フィニッシャーで仕上げます。次の日もスキーヤーが楽しく滑走できます。最近では、人工降雪機も使用し、雪の管理をしています。



「技術」と「想い」をつないでいく

積雪深を可視化することで、熟練オペレータが、「何を考え」「どこに向かい」「どんな作業をしているのか」を共有し、受け継いでいくことができる。

まだ見えてないスキー場の状況を可視化し、今あるものを活かしていくことで、気候変動等の不確実な課題に対応していく必要がある。



田村颯一 21歳 酪農学園大学農学部の研究室4年生
さっぽろばんけいスキー場圧雪オペレータ

乗り物が好きだった私は、幼少の頃、両親とスキー場に行ったときに圧雪車の大きさに圧倒され、「カッコいい!」と思ったことを鮮明に覚えている。後にスキー場で働きはじめ、3シーズンのリフトスタッフ勤務を経て、圧雪部隊に異動。今年で2シーズン目の新米圧雪オペレータ。

